

Movie Review 82 #未解決事件 北朝鮮拉致事件

『#NHK スペシャル file.2 未解決事件 北朝鮮拉致事件』(2024年)をNHK総合とNHK on demandで視聴した。NHKがドラマとドキュメンタリーで「未解決事件」シリーズとして、深層と捜査の裏側を放送し、改めて関心を喚起する意図があったようだ。

北朝鮮による日本人拉致事件は、1970年代から80年代に北朝鮮工作員が日本人を強制的に連れ去った国家犯罪で、2002年の日朝首脳会談で金正日総書記が初めて拉致を認めたが、認定された17人のうち12人が未帰還のまま、多くの親世代が亡くなり、解決には至っていない。事件は北朝鮮によるスパイ養成目的などで行われ、捜査・外交・政治が複雑に絡み合い、未解決のまま膠着状態が続き、解決の糸口が見えない状況であるが、被害者家族や関係者は解決を求め続けている。

事件の概要と背景

- ・拉致の目的：工作員の養成・育成、身分偽装のための教育係。
- ・拉致の手口：日本の海岸での連れ去り、海外留学中の学生の誘拐など。
- ・発覚：1980年代後半から事件が表面化し、大韓航空機爆破事件（1987年）の容疑者（金賢姫）の証言で、北朝鮮による拉致が決定的な証拠と共に明らかになった。

解決への道のりと現状

- ・2002年日朝首脳会談：金正日総書記が拉致を認め、生存者5人（蓮池薰氏他）が帰国。しかし、残された被害者の安否不明や提出された遺骨の矛盾など、問題は未解決のまま。

・未帰還者の状況

：政府認定の17人のうち12人が未だ帰国できず、安否不明。親世代は高齢化し、再会を果たせないまま亡くなるケースが相次いでいる。

・未解決の要因：警察捜査の限界、外交交渉の難航、北朝鮮側の非協力など、複数の要因が絡み合っているため（捜査の最大の山場で、自民党・社会党議員による北朝鮮訪問が実現し、捜査の前日取りやめ）。

最近の動きと課題

- ・国連の勧告：国連の専門機関も拉致問題を未解決とし、北朝鮮に情報提供を勧告。

・課題：「国益」や政治的思惑に翻弄されつつ、いかにして人権問題としての解決に繋げるかが最大の課題。

この問題は、日本政府、関係機関、そして被害者・家族が長年取り組みを続けて

いる、日本社会にとって非常に重い人権問題であり続けている。

本作を視聴していて、なぜ「5人だけ」帰国し、他の拉致被害者は戻らないのか疑問に感じた。

1. 北朝鮮が「5人以外は死亡・未入国」と主張しているため

2002年日朝首脳会談で北朝鮮は初めて拉致を認め、5人の生存を明らかにしたが、他の被害者については「死亡した」、「北朝鮮に入っていない」など、極めて不自然で信憑性の乏しい説明を繰り返している。日本政府はこれを受け入れておらず、全員の即時帰国を要求し続けている。

2. 北朝鮮にとって拉致被害者は「交渉カード」だったため

北朝鮮は長年、拉致問題を外交カードとして利用してきた。5人の帰国は、当時の金正日政権が日本との関係改善を模索した一時的な判断とされている。

しかしその後、核開発問題、国際制裁、国内の権力構造の変化

などが重なり、北朝鮮は「これ以上の譲歩はしない」姿勢に転じた。

3. 生存者の扱いが北朝鮮内部の機密に深く関わるため

拉致被害者は、工作員教育（日本語・日本文化）や偽装身分の作成などに利用されていたため。それゆえ、「生存者の存在自体が国家機密」となり、返還が難しくなっている。

次に感じた疑問は、1987年の大韓航空機爆破事件で115人を死亡させた金賢姫が「なぜ死刑にならず、自由にインタビューに応じられるのか」ということである。

1. 彼女は死刑判決を受けたが、韓国政府により「特赦」された

・韓国で死刑判決が一度確定

・しかし1990年、韓国政府が「特赦」を決定し釈放

2. 特赦の理由は「彼女が北朝鮮の被害者でもある」という判断

韓国政府は、

・幼少期から工作員として洗脳されていた

・北朝鮮の体制の犠牲者であると判断し、政治的・人道的理由で特赦を行った。

当時の韓国は民主化直後で、「北朝鮮の実態を証言させることが国益になる」という判断も大きかった。

3. その後は韓国政府の保護下で生活し、メディアにも登場

・韓国国家安全企画部の嘱託職員として活動

・自叙伝を出版

・拉致問題に関する証言を行う

・結婚し、現在は一般市民として生活

彼女は現在も韓国国内で保護されており、北朝鮮からの報復を避けるため、居場所は公表されていない。

日本には、問題が何であれ解決のために邁進する強力なリーダーがいないようだ。

評価：★★★★★